

戦いはこれからだ 頑張りましょう！ 「511 台湾正名運動 日本デモ」にご参加いただいた皆様へ

早川友久／「511 台湾正名運動日本デモ実行委員会」副委員長

2003/05/19

「511 台湾正名運動 日本デモ」にご参加いただいた在日台湾人の皆様、台湾を心から想って下さる日本の皆様、ありがとうございました。参加者の中には名古屋、仙台など、遠くから新幹線で駆けつけた方々もいらっやって、主催した側としては感謝の念に堪えません。

当日の朝まで、「昼から雨」という天気予報で降水確率も50%ありました。(準備の間、「中国が雨乞いしているに違いない」との冗談も飛び出しました)しかし、デモが始まると晴れ間も出る陽気で、まさに天も我々の「台湾の声」が正しいと味方してくれたようでありました。

我々は5月11日、台北にいるはずでした。李登輝総召集人を先頭に「台湾は台湾である」ということを声高らかに謳いあげるはずでありました。しかし、その正名運動は9月に延期となりました。何故でしょうか？言うまでもなく、中国政府がSARS(中国肺炎)の発生をひた隠しに隠し続け、世界中にウィルスを撒き散らし、世界をパニックに陥れたからに相違ありません。この中国のお家芸でもある「隠蔽工作」の動機の1つは、「自国の経済的発展にブレーキがかかることを恐れたため」という、まさに自己の利益のことしか頭に無い中国の拝金主義を如実に表しています。この利己主義と保身に走る身勝手さは、中国五千年の歴史の筋金入りですから余計手に負えません。

「中国こそ世界の疫病神」という尻尾を出した今こそ、正名運動の延期をただ受け入れるのではなく、「台湾は中国ではなく、あくまでも台湾であり『台湾人は台湾人である』そして、未だに「在日台湾人が所持する外国人登録証の国籍欄を“中国”から“台湾”へ変更せよ」という声を上げるべきであると考え、「511 台湾正名運動 日本デモ」を挙りました。

併せて、SARS(中国肺炎)の発生にもかかわらず、台湾はWHOに加盟していないため、必要な情報と救援を受ける事が出来ませんでした。しかしながら、台湾は最新鋭の医療技術と国家をあげた防疫対策で何とか病気を封じ込めようと努力し、その成果は世界から評価を受けています。ここへ来て、台湾が蝕まれ始め、患者数・死者数が遡増しており、WHOからの危険指定のレベルも引き上げられています。

米国下院議会では、全員一致で「台湾のWHO加盟を支持する」決定がなされ、日本でも坂口厚生労働大臣が加盟支持の発言をしています。それにもかかわらず、来日中の王毅・中国外務次官は「台湾はSARS騒動を政治的に利用して、WHOに加盟しようとしている。中国は台湾のWHO加盟に反対する」と発言しました(13日付・産経新聞)。

「人間の健康・生命を守る機関である」WHOに台湾が加盟することに反対する中国の姿勢は、人命を軽んずる姿勢そのものです。人の命を命と思わない、その考え方が、中国肺炎を世界に蔓延させた元凶と言えましょう。この期に及んで、台湾のWHO加盟反対を抜けぬけと発言する傲慢さに決して屈してはなりません。幸い、川口外相は日本の台湾WHO加盟支持の姿勢を変えなかったようです。

ともあれ、5月2日に「正名運動延期」の一報を受けてから10日にも満たない準備期間でしたが、300人を超える参加者の方々を迎えることが出来、大成功に終わりました。これもひとえに台湾人の方々の祖国を想う精神と、台湾に想いを寄せる日本の方々の気持ちが一体となり昇華したからに他なりません。我々の想いが、李登輝総統以下、SARSの恐怖に怯える台湾に少しでも勇気と激励、そして追い風を贈ることが出来たと確信しています。

「国家の独立は、国民の独立に他ならず、すなはち国民の独立は精神の独立である」と、早稲田大学黎明期のメンバー小野梓は説きました。まさに各人の崇高なる祖国への想いが国民の独立を促し、更には国家の独立に繋がるものです。ここ数年来、李登輝総統をはじめ、心ある台湾人がいくら警告しようともとどまることを知らない「対中国投資」目の前の有望市場に己を忘れ、利益追求のために「中国と一緒にあったほうが良い」と台湾人であるにもかかわらず願っている人がいるならば、それこそ正に「祖国を金で売り渡す」行為であり、小野梓の言葉に準えるならば「己の精神を金で売る」行為にちがひありません。そういう人間のことを日本語では「国を売る奴」と書いて「売国奴」と表しま

す。私たちは、金と引き換えに自分の国を切り売りするような考え方が以下に危険かを説いていく必要もあるのです。

私たちの運動はあたかも、少しずつ、根気よく天秤に錘を乗せていく行為に他なりません。一つ一つが本当に小さな錘ではあるけれども、いつか天秤の向きが変わる時が来るのです。焦ってはなりません、諦めてはなりません。我々が祖国のために錘を乗せ続けていくのみです。これからもがんばりましょう！（本会青年部部長）

#### 【参考】

511 台湾正名デモ：東京で盛大に

台湾 張茂森／自由時報 2003.5.12

「511 台湾正名デモ」が11日午後、在日台湾人や親台派の日本人らによって、東京の繁華街である新宿で行われた。デモ隊は「台湾は中国の一部ではない」「台湾のWHO加盟への中国の干渉に反対する」との訴えを行い、広範な日本の民衆の注目を集めた。511正名運動の総召集人でもある李登輝前総統もメッセージを寄せ、在日台湾同郷会の林建良前会長が紹介した。メッセージで李前総統は、「台湾は台湾であって中国の一部ではない。だが中国はそれを認めず、しかもWHO加盟を妨害することは、台湾人にとって耐え難い人権侵害だ。日本政府は在日台湾人の国籍を『中国』としているが、『台湾』に改めるべき」として、中国の人権を無視した蛮行を批判するとともに、台湾人と日本人の参加者に感謝の意を述べた。

この日参加したのは在日台湾同郷会や日本人の台湾研究フォーラムなどの団体を含むおよそ300人。台湾からは「511正名運動連盟」の王康厚執行長も掛けつけた。デモ隊は新宿繁華街の四つの大通りでシュプレヒコールを叫び、人々の注目を集めた。とくに大久保や歌舞伎町は中国人が密集する地区でもあり、効果はより大きいものとなった。

「511台湾正名運動日本デモ実行委員会」の陳明裕委員長は、「台湾人の国籍は『中国』ではない」と強調するため、森山真弓法務大臣宛てに「在日台湾人国籍表記改正要望書」を手渡す予定だ。外国人登録証の国籍記載で、台湾人と中国人をはっきり区別するよう求めるという。